

< 2018 研究会筑後合宿概要報告 >

1. 開催概要

(1) 開催日程：2018年10月19日（金）～10月20日（土）

(2) 開催場所：九州芸文館、筑後・八女地域

(3) スケジュール

19日 18:00～ 山本先生のオープニングセミナー、懇談会

20日 7:30～16:45 現地視察

船小屋中之島公園→山村塾 四季菜館→唐ノ瀬堰→八女観光物産館→

鹿田写真館→船小屋鉱泉→恋ぼたる→内野樟脳→長田鉱泉→

恋の木神社→WAKKA（大木町地域創業交流支援センター）→

→くるるんトマトファーム・道の駅おおき→JR 船小屋駅（解散）

(4) 参加者 研究会：9名、筑後粋鷹：11名

2. オープニングセミナー（山本先生）

「筑後地域の活性化戦略」～文化施設・レクリエーション施設等と連携した「戦略的道の駅」を拠点とする地域ぐるみのマーケティング戦略～

(1) 筑後地域の特性

①農山村

- ・農業担い手の減少、高齢化
- ・都市住民の66.7%が農山漁村移住を考えたことある
- 仕事、住まい、コミュニケーション

②筑後市のソーン特性

- ・中心市街地：行政、団体、商業施設
- ・交通・慰楽・集客：船小屋駅、九州芸文館、広域公園、タマスタ、温泉

→「川の駅恋ぼたる」を地域経済活性化の基幹施設と位置付けるべき

(2) 川の駅恋ぼたるの活性化

①SWOT分析

- ・強み：立地、豊かな品揃え、新鮮な海の幸、山の幸、良質な温泉館
- ・弱み：知名度が低い、アクセスがわかりにくい、従業員の活力不足
- ・機会：レジャー指向、健康指向、働き方改革、スペースワールド閉館
- ・脅威：道の駅みやま、ハウステンボス（好調）

②戦略的道の駅の設立

- ・道の駅のメリット：国交省認可ソーシャルビジネス、道路標示、ネットワーク
- ・戦略的道の駅＝道の駅＋農業担い手確保・就農移住支援
- ・待ちの姿勢→攻めの姿勢
- ・有能な駅長（小売りノウハウ＋経営力）



③戦略的道の駅モデル

- ・経営資源：地元の生鮮品・生鮮加工品
- ・ターゲット：地元顧客＋ターゲット都市
- ・事業内容
地域内商業（直売）、観光（レストラン、ツーリズム）、外販（アンテナショップ）
農山村支援（帰農、移住、定住、承継、担い手支援体制）

（３）戦略的道の駅「筑後船小屋恋ぼたる」の構築

①現状「恋ぼたる」：物産館、温泉館、レストラン、無料駐車場、清潔なトイレ

②追加すべき機能：道路情報、就農移住等に関する情報提供・相談窓口

③就農移住等農業振興体制

- ・営農センター（農業方針の決定最高機関）の設立
→農地大規模集約化、農地貸借、農作業受託、新規就農支援
- ・市町村による移住用住宅整備

④移住支援戦略

- ・無料相談窓口→営農センターにつなぐ
- ・駅長の歓迎・激励
- ・地元顧客向け品揃え
- ・農家民宿、農業体験施設への誘客

（４）戦略的道の駅「筑後船小屋恋ぼたる」のマーケティング戦略

①ターゲット顧客層毎の戦略

- ・学生層×スポーツ・セミナー合宿
- ・企業×レクリエーション、研修
- ・ファミリー・主婦・PTA・町内会×小旅行
- ・シルバー客向け戦略
- ・外国人客向け戦略

②成果の測定手段

- ・戦略的道の駅の総売上高、道の駅施設・関連施設のレジ通過客・利用客数
- ・農家の所得増減実態、出荷者の活力増減実態
- ・市町の医療費増減実態

③具体的戦略

- ・アクセス道路標示、利用しやすい駐車場、アイキャッチポイント
- ・生鮮品・惣菜の充実、在庫・品揃え管理、回遊性、ディスプレイ
- ・きめ細かく温かみのある情報提供・相談施設
- ・ログハウス展示、炭火バーベキュー、アンテナショップ
- ・他の集客施設（九州芸文館、タマスタ、船小屋温泉等）との回遊性
- ・販路拡大とプロモーション展開
- ・有能な道の駅駅長選任

3 現地視察

(1) 船小屋中之島公園

朝一番で中之島公園の樹齢約400年の大樟林を散策。樟は江戸時代に氾濫防止のために植林されたもので、大水の時は中之島公園が水没する。筑後粹鷹の安西代表からの説明を聞きながら、森林セラピーを満喫しました。



(2) 山村塾 四季菜館

山村塾は、福岡県八女市黒木町笠原地区で都市と農山村の住民が一緒になり、環境にやさしい米づくりや、豊かな生態系の森づくりを通じて山村の環境を守る取り組みを、1994年から行っているNPO法人。その農業体験交流施設の四季菜館で、椿原館長から理念や合鴨農法、山林保全等の活動について説明いただきました。



(3) 唐ノ瀬堰

筑後国が久留米藩と柳川藩に国割されたため、水争いが発生した。矢部川の上流から花巡堰・一三ヶ名堰・馬渡堰・黒木堰・込野堰・惣河内堰・唐ノ瀬堰・一花宗堰・広瀬堰・松原堰と両藩の井堰が交互に設けられ、相手方の井堰のすぐ下流に廻水路が設置された。

立花町の唐ノ瀬堰を視察しました。



(4) 八女観光物産館・八女伝統工芸館

八女の情報発信基地として、八女・奥八女の物産や観光情報を来場者に提供するための観光物産館「ときめき」を視察しました。お茶、地酒、農産加工品等が並ぶ物産販売コーナーでお土産を調達し、名物の八女茶ソフトクリームも堪能しました。

隣接する伝統工芸館では、日本一の大型仏壇、巨大な提灯、石灯籠等に圧倒されました。



(5) 鹿田写真館

大正時代に建てられた船小屋温泉郷の鹿田写真館です。東京でカメラマンをしていた鹿田典夫氏が経営しており、自然光をうまく採り入れたスタジオや古き良き写真等を見学しました。



(6) 雀地獄

飛んでいる雀が炭酸ガスで落ちたという言い伝えがあす雀地獄。すぐ横にある共同浴場「すずめ湯」は現在営業しておらず、筑後粹鷹としては何とか復活させたいと画策中です。



(7) 船小屋鉱泉場

日本一の含鉄炭酸泉を味わえます。おいしいかどうかは別として、慢性消化器病等に効果があるようです。入浴すると炭酸ガス効果により毛細血管が拡張し、血液の循環が良くなります。日露戦争中には、陸軍が船小屋を転地療養所に指定し、療養者・家族で賑わったそうです。



(8) 川の駅「船小屋恋ぼたる」

イートインスペースで里山弁当による昼食。天気・気候も良くハイキング気分のランチとなりました。

「恋ぼたる」については、オープニングセミナーで山本先生から戦略的道の駅としての活用が提案され、参加者の皆さんもその観点を参考に視察していました。



(9) 内野樟脳

樟から作られる樟脳は天然の防虫剤として古来より利用されてきました。内野樟脳は日本に残る最古かつ唯一の樟脳天然工場です。

その製造工程は裁断した樟を水蒸留・抽出し、ゆっくり冷却することにより結晶化する。抽出後の樟チップは乾燥後に蒸留釜の燃料として利用する等、全てが無駄にならないエコ工場ということでした。



(10) 長田鉱泉場

船小屋鉱泉場からは矢部川をはさんだみやま市にある鉱泉場。船小屋鉱泉よりクセがなくすっきりした炭酸泉であり、飲用のほか足湯も設置されていました。また、売店では「コガ・コーラ」が大人気とのことでした。



(11) 恋木神社

九州二大天満宮である水田天満宮の末社の一つとして、全国でも唯一の恋木神社がある。

「恋命」を御祭神として祀り、鳥居、参道、絵馬等随所にハートのモチーフが使用されており、若い女性に大人気のスポットとなっています。



(12) WAKKA

大木町が「道の駅おおき」の隣に今年3月に設置した地域創業・交流支援センターです。食と農を中心とした商品開発や体験交流、起業支援や商工業のPR等の事業に取り組んでおり、オープニングセミナーにおける戦略的道の駅に必要な農業体験・就農移住支援機能を担える施設と思われました。



(13) くるるんトマトファーム

元研究会員の龍さんの娘さんが運営しているトマトファーム。広大なハウスの中で成長するトマトを見ながら、生産上の工夫・苦勞等についてお話しいただきました。

生産したトマトの販売ルート等についても、今後検討していきたいということでした。



以上、現地視察は盛りだくさんで、非常に実り多い筑後合宿となりました。現地・行程バス車中で丁寧かつ詳細な情報提供をいただきました筑後粋鷹の皆様に深謝します。

今後とも筑後粋鷹とは情報交換・交流を進めていけたらと思っております。